

推奨順	成分名	規格 (μg)	薬価 (円)	用法・用量 (日)	上段; 1日量 (mg) [下段]; 1日薬価 (円)		臨床成績
					s.c.	i.v.	
1	フィル グラス チム BS	75	2,894	50 μg/m ² s.c. or 100 μg/m ² i.v.	75	150	有効性 ○全死因死亡 フィルグラスチム BS と先行品で治療に関連した死亡は見られなかった。 ○感染症関連死亡 感染関連死亡率に対する GCSF と抗生物質の影響は明確ではない。 ○10日間を超える入院患者数 GCSF 投与により入院期間の短縮がみられた。 ○FN 発症率 フィルグラスチム先行品と BS の間に有意な差は認められなかった。 レノグラスチムはプラセボと比較し、有意な差がなかった結果が報告されている。
		150	4,679		[2,894]	[4,679]	
2	フィル グラス チム	75	7,546	100 μg/m ² i.v.	75	150	○好中球回復時間 GCSF 投与により好中球減少の期間の短縮がみられた。 フィルグラスチム BS と先行品で好中球回復に非劣性が認められた。 レノグラスチムはプラセボと比較し有意に短期間で好中球数の回復が認められた。 ○好中球減少症 G4 期間 フィルグラスチム BS と先行品で好中球減少症 G4 の回復に非劣性が認められた。 レノグラスチムはフィルグラスチムに比べて臨床的に同等であった。 ○発熱からの回復 GCSF 投与により発熱から回復するまでの時間の短縮がみられた。
		150	13,909		[7,546]	[13,909]	
3	レノグ ラスチ ム	50	3,389	2 μg/kg s.c. or 5 μg/kg i.v.	100	300	安全性 ○重大な副作用 G-CSF 投与による重篤な有害事象は報告されていない。 ○その他の副作用 骨関節痛またはインフルエンザ様症状は G-CSF 投与により優位に発症率を上げた。 フィルグラスチム BS と先行品で有害事象に有意な差は見られない。 優先順位 フィルグラスチムが質の高い試験デザインの報告が多く、様々な患者層で試験を実施されているため外挿性が高い。一方でレノグラスチムは質の高い試験デザインがフィルグラスチムほど多くなく、外挿性も低いいため順位を下げた。フィルグラスチム BS と先行品は非劣性が示され、薬価の面で利点があるため、順位を上げた。
		100	5,949		[5,949]	[17,764]	
		250	14,375				

ペグフィルグラスチムは他 GCSF 製剤と適応が異なるため、評価対象外とした。

2021年5月初版(2021年4月薬価)

